

電気を安全に安定してお届けする。
 当たり前のことだけど、
 それが私たちの変わらない思いです。



お客さまへの奉仕を第一に考える。
 そこから私たちの仕事が始まります。



初代社長 太田垣 士郎

関西電力の創業間もない1951年、初代社長、太田垣士郎は「前垂れがけの精神」を提唱しました。それは大阪商法の精神を受け継ぎ、真の民間企業として「お客さまへの奉仕を第一に考える」という思いをあらわしたものです。この精神は1964年に策定された「関電サービスの確立」の中で、企業理念として凝縮されました。

〈関電サービスの確立〉
 (1964年社達)

1. 豊富・良質・低廉な電気で需要家に奉仕する
2. 真心のこもったサービスに全力を尽くす
3. 地域社会の発展、繁栄に貢献する



●1958年2月、最大の難工事、関電トンネルが貫通

不可能といわれた、くろよん建設。
 完成させたのは、
 電力供給への強い使命感でした。

半世紀前、戦後の復興期にあった日本の社会は、慢性的な電力不足に悩まされていました。そこでどうしても必要だったのが、日本一深い峡谷に豊富な水量を抱えた黒部川での水力発電でした。しかし、厳しい自然条件が人の侵入をかたくなに拒みます。不可能とさえいわれた通称くろよん(黒部ダム/黒部川第四発電所)。7年の歳月と、延べ1,000万人の労力を投じた大プロジェクトを実現させたのは、「なんとしても電気をお届けしなければならない」という強い思いでした。



●完成間近の黒部ダム
 (1963年6月 黒部川第四発電所竣工)

日本の原子力のパイオニアとして。
 美浜発電所1号機は、人々の暮らしを支えています。

日本中で電力需要が高まる高度経済成長期、関西の電力需要を十分に満たすには、原子力発電所の建設が必要でした。その先駆者となったのは、1967年に本格的に建設が始まった美浜発電所です。発電所の着工から運転までには原子力の知識から発電所の運転方法、人材育成など、幾多の障害がありましたが、「大阪万博に原子力の灯を」を合言葉の一つひとつ乗り越えてきました。1970年8月8日には約1万kWの電気出力で万博会場へ試験的に送電し、11月には商業用加圧水型軽水炉の原子力発電所として、日本で初めて営業運転を開始しました。2010年11月、美浜発電所1号機は運転開始40年を迎えます。これからも原子力発電は、電気の安全・安定供給の一端を担っていきます。



●現在の美浜発電所

震災から15年、全社が一丸となった
 経験はいまでも貴重な財産です。



●阪神・淡路大震災時の復旧作業



●倒壊した阪神高速道路

1995年1月17日、マグニチュード7.3の「阪神・淡路大震災」が発生。あらゆるインフラが破壊され、約260万軒が停電するなど、電力設備も壊滅的な被害を被りました。関西電力はただちに非常災害対策本部を設置し、応急復旧に取り組みました。瓦礫の中を奔走する、不眠不休の作業です。全国の電力会社や協力会社の応援がありました。お客さまの叱咤激励がありました。その甲斐あって地震発生から153時間後の1月23日、被災地全域への応急送電が完了。明かりが灯る街を見て、お客さまから「ありがとう」の言葉をたくさんいただきました。このとき、全社が一丸となって困難に挑んだ経験は、決して忘れてはならない貴重な財産となりました。



●神戸の夜景